湯浅ばなし 05

武士たちの湯浅

湯浅党の終焉

武士が歴史に登場する平安時代末期以降、湯浅の地で活躍したのが湯浅党です。方津戸峠の東方にある広保山城は、湯浅宗重が湯浅城を築くまで拠点としていた所であると伝わっています。湯浅城は、文安年間（1444 ～ 49）に南朝方の残党が籠り、落とされるまでのおよそ 280 年間、湯浅党の軍事的な拠り所でした。

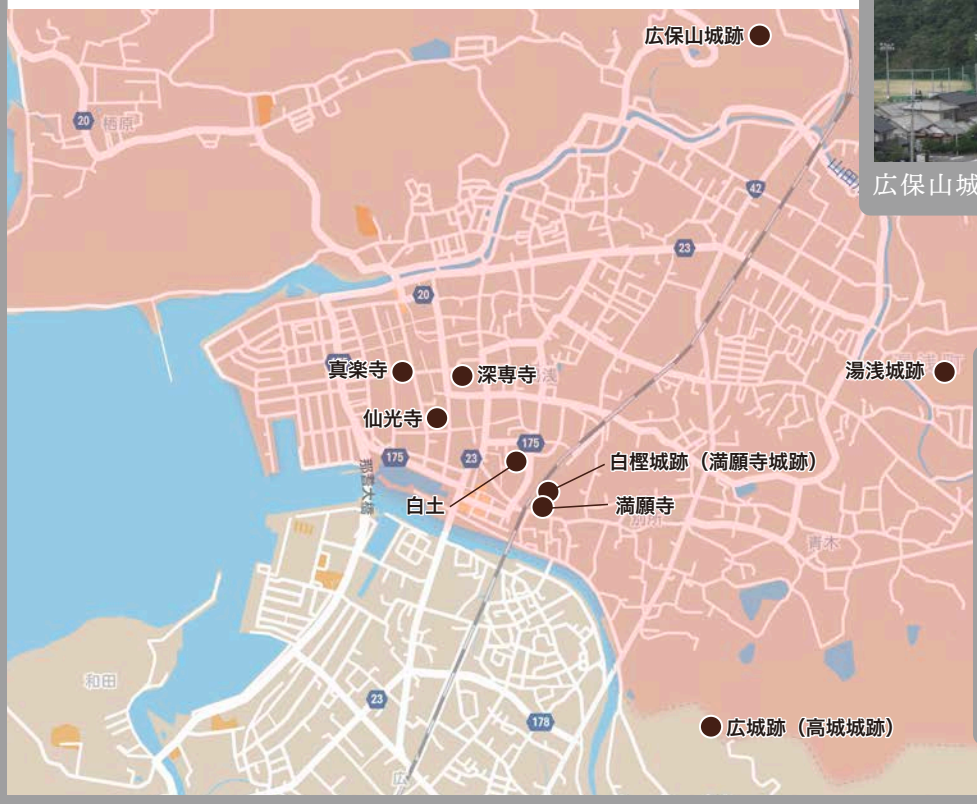
白樫左衛門尉像（深専寺所蔵）

畠山氏と広城（高城城）

湯浅党のあと、この付近に入ったのは、畠山氏です。畠山氏は、湯浅町と広川町の境にある高城山に広城（高城城）を築き、支配拠点としました。湯浅の地には、白土と呼ばれる広川河口を望む台地上に下屋形を置き、仙光寺が開かれました。

白樫氏と白樫城（満願寺城）

広城が、湯川氏によって攻略された後、湯浅の地を治めたのは、畠山氏の家臣であった白樫氏です。満願寺の裏山に、白樫城（満願寺城）を整え拠点としました。白樫氏が深く帰依した深専寺には関係する資料が伝わっています。白樫氏は、豊臣秀吉に従い、大坂の陣でも西軍に与して出陣しましたが、敗戦後に湯浅湾に浮かぶ鷹島に渡って自刃したとされています。

広保山城

広城（高城城）